

短大特任教員教育研究業績書

平成 30年 4月 1 日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
佐藤 史子	さとう ちかこ	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・講師・助教	女
担当科目名				
「造形表現Ⅰ」「造形表現Ⅱ」「表現指導演」「表現総合演習」「保育実習Ⅰ」「保育実習指導Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」				
学 歴				
和暦(西暦)年 月	事 項			学位
昭和 52 (1977)3 月	広島大学教育学部中学校教員養成課程美術専攻 卒業			学士(教育学)
平成元 (1989) 4 月	広島大学学校教育研究科 入学			
平成 2 (1991) 3 月	広島大学学校教育研究科 修了			修士(教育学)
平成 18 (2006)3 月	東京学芸大学大学院連合学校教育研究科			博士(教育学)
教 育 歴 ・ 職 歴				
名 称	期 間	教 育 内 容 又 は 業 務 内 容		
広島文教女子大学短期大学部幼児教育学科	昭和 54 年 4 月 ～昭和 62 年 3 月	助手「絵画製作」「図画工作」 学生部委員 実習就職担当		
広島文教女子大学文学部初等教育学科	昭和 56 年 4 月 ～昭和 62 年 3 月	助手「図画工作」「図画工作科教育法」		
広島文教女子大学付属高等学校	昭和 56 年 4 月 ～昭和 62 年 3 月	非常勤講師「美術」進路指導		
広島文教女子大学短期大学部幼児教育学科	昭和 62 年 4 月 ～平成 2 年 3 月	講師「絵画製作」「図画工作」 学生部委員 実習就職担当		
広島文教女子大学文学部初等教育学科	昭和 62 年 4 月 ～平成 2 年 3 月	講師「図画工作」「図画工作科教育法」		
愛媛大学教育学部	平成 2 年 4 月 ～平成 4 年 3 月	講師「初等図画工作」「初等図画工作科教育法」「美術科教育法」「美術科教育特講」「工芸科教育法」「図法製図」「木材工芸」学生委員会委員		
愛媛大学教育学部・大学院教育学研究科	平成 4 年 4 月 ～平成 19 年 3 月	准教授「初等図画工作」「初等図画工作科教育法」「美術科教育法」「美術科教育特講」「工芸科教育法」「図法製図」「木材工芸」「美術科教育実践の研究」「芸術の世界」将来計画委員会委員 就職委員会委員 教務委員会委員 人権問題相談連絡協議会相談委員		
広島大学大学院社会科学部研究科	平成 10 年 4 月 ～平成 11 年 2 月	客員研究員「ゲシュタルト心理学・グルジア学派心理学」に関する研究		
愛媛県保育専門学校	平成 12 年 4 月 ～平成 19 年 3 月	非常勤講師「図画工作」「表現Ⅱ」「卒業研究」		
新居浜工業高等専門学校	平成 18 年 4 月 ～平成 19 年 3 月	非常勤講師「美術」		
愛媛大学放送大学	平成 18 年 8 月	講師「教育と発達」		
愛媛大学教育学部・大学院教育学研究科	平成 19 年 4 月 ～平成 21 年 3 月	教授「美術科教育特論」「美術科教育実践の研究」「修士論文指導」「実践省察研究」将来計画委員会委員 教務委員会委員 実習カリキュラム委員会委員 美術科教育研究室主任 人権問題相談員連絡協議会アドバイザー		
総合学園ヒューマンアカデミー広島校チャイルドケアカレッジ	平成 24 年 2 月 ～平成 27 年 10 月	非常勤講師「図画」「工作」「国語」「憲法」「基礎情報学」		
三幸学園医療秘書こども専門学校こども総合学科	平成 26 年 4 月 ～現在に至る	専任講師「教育方法論」「教職論」「教育課程論」「絵本の世界」「絵本の作成」		
近畿大学豊岡短期大学通信教育課程	平成 26 年 4 月 ～平成 29 年 3 月	専任講師		

小田原短期大学	平成 28 年 4 月 ～現在に至る	保育学科通信教育課程 教授 「造形表現」「表現総合演習」 「表現指導法」「保育実習」「保育実習指導」
所 属 学 会 等		
名 称	活動期間	活動内容 (役職等の活動を含む)
大学美術教育学会	昭和 62 年度 ～現在に至る	全国地区理事 四国地区理事 学会誌査読委員会委員 論文査読委員 「美術教育フォーラム」企画運営 (H13)
日本教育大学協会	昭和 62 年度 ～現在に至る	美術部門地区全国理事
日本保育学会	平成 2 年度 ～現在に至る	委員
日本保育者養成学会	平成 28 年度 ～現在に至る	委員
社 会 活 動 等		
名 称	活動期間	活 動 内 容
愛媛県美術教育連盟	平成 2 年度～22 年度	副会長、研究局顧問、指導員会委員
第 55 回造形表現・図画工作・美術教育研究大会	平成 13 年度～16 年度	準備委員会委員、分科会役員、指導助言
えひめこども美術展中央審査委員	平成 14 年度～22 年度	幼児・小学生・中学生・高校生の造形作品の審査委員。
愛媛大学教育学部・今治市教育委員会連携協力事業 研究委員	平成 15 年度～22 年度	公開研究授業の指導・助言
愛媛大学附属幼稚園・小学校・中学校連携教育研究 研究協力委員	平成 18 年度～22 年度	愛媛教育研究大会分科会の指導・助言。
松山市立新玉小学校校内研修	平成 15 年 1 月	指導助言
出前授業「鑑賞学習」	平成 15 年 3 月	愛媛美術館・清水小学校との連携協力授業 (愛媛新聞掲載)。
参加型ワークショップの提供「アートな湯築Ⅰ・Ⅱ」	平成 15 年 6, 11 月	松山市湯築小学校 (愛媛新聞掲載)
美術科主任会	平成 15 年 9 月	講師
中学校美術科夏季研修会	平成 16 年 8 月	講師
愛媛大学教育学部・松山市教育委員会連携協力事業 研究委員	平成 16 年度～22 年度	教科研修会「フレッシュサタデー」の講師など。
文部科学省 科学研究費補助金 採択審査委員	平成 17 年度～22 年度	科研費採択の審査
愛媛県長寿社会振興センターシルバー美術展	平成 17 年 12 月	指導協力 愛媛県社会福祉協議会との連携協力事業
地球人まつり	平成 18 年 1 月	参加型ワークショップの提供 責任担当者 主催:松山市国際交流委員会 まつやま国際交流センター
愛媛大学教育学部・愛媛県教育委員会連携協力事業 研究委員	平成 18 年 2 月	教職員レベルアップセミナー講師
放送大学 面接授業	平成 18 年 8 月	第 1 学期「造形表現の発達と教育」
青少年のための科学の祭典松山大会	平成 18 年 11 月	ブース 27 主任講師 主催:青少年のための科学の祭典松山大会実行委員会 文部科学省 日本科学技術振興会・科学技術館
えひめ子ども美術展ワークショップ	平成 19 年 1 月	指導講師 松山市立南中学校との連携協力
学力向上拠点形成事業・校内研修	平成 19 年 2 月	指導委員 主催:松山市立桑原中学校

ダンボクラブ (愛媛県高機能自閉症・アスペルガー症候群親の会)「美術教室」	平成 17 年度～21 年度	講師		
青少年のための科学の祭典 松山大会	平成 19 年 11 月	主任講師 主催：青少年のための科学の祭典松山大会実行委員会、文部科学省 日本科学技術振興会・科学技術館		
第 32 回全国育樹祭	平成 19 年度～22 年度	愛媛県営林署との連携事業 環境デザイン準備委員会委員 (副会長)		
担当教科目に関する資格・免許等				
名 称	取得年月	取得機関		
高等学校教諭二種普通免許状 (美術)	昭和 54 年 3 月	広島県教育委員会		
中学校教諭一種普通免許状 (美術)	昭和 54 年 3 月	広島県教育委員会		
中学校教諭二種普通免許状 (社会)	昭和 54 年 3 月	広島県教育委員会		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 1. 広汎性発達障害児のための造形プログラムと支援	単	平成 20 年 7 月	『愛媛大学教育実践センター紀要』第 26 号, 愛媛大学	広汎性発達障害の子どもたちのための造形プログラムを開発・実践した。また、教科指導と子ども理解の観点から支援方法を考究した。個別支援や視覚的支援の重要性、見通しをもたせる支援の重要性を指摘した。科学研究費補助金・基盤研究(C)課題番号：19530825
2. 広汎性発達障害児に関わる美術教師の支援	単	平成 20 年 10 月	『愛媛大学教育学部紀要』第 55 巻, 愛媛大学	通常学級に在籍する広汎性発達障害児の授業観察を通して、障害の特性がもたらす学習活動への影響を整理した。また、教師は視覚的支援、ワークシートの活用、よさを認める評価を重視する必要があると指摘した。科学研究費補助金・基盤研究(C)課題番号：19530825
(その他) 1. 造形学習における「協同的な学び 一面接授業「造形表現 I」の実践と考察」	単	平成 29 年 3 月	小田原短期大学保育科通信教育課程『授業評価基準』2017 年度版	スクーリングの教授方法を検討した。すなわちスクーリングを学習時間の温床として捉え、授業は時間軸に沿った学習者の思考の推移と「学び」の関係を構想して計画すること。個人学習や協働学習などの学習形態・学習環境 (授業場所の物理的条件など) を単元と関連づけて構成することで造形学習における協同的な学びが成立することを示唆した。
2. 保育士養成科目におけるプロジェクト学習の実践と省察	単	平成 29 年 3 月	小田原短期大学保育科通信教育課程『授業評価基準』2018 年度版	レジヨ・エミリアのプロジェクト学習を援用した授業実践の報告である。授業は、「学び」「意欲」「思考」「協働」「表現」「プロジェクトワーク」の視点を設けて学習環境をデザインした。学習者のコメントを分析した結果、「造形教科としての学び」「オーセンティックな課題」「協働」「フィールドワーク」「指導」「メタ認知」に関する記述が多く、プロジェクト学習における教育課程は日常や社会生活との接点を重視すること、学びの進展に有意であることなどを示唆した。
その他 (表彰等)	1984 年 4 月	第 50 回 東光会 「室内Ⅶ」油彩画.1455×970mm.ファインアート賞受賞		